

シルク・アート・ティーテーブルの開発 ■応用技術課 主任研究員 加悦 秀樹

デザイン担当では、「自社の強みを生かしたプロダクト制作に取り組みたいが、効果的なデザインはどのように取り組めばいいか…」といったデザインに関わるさまざまな御相談にお応えしています。今回は京都の白生地屋さん((株)伊と幸)が開発したティーテーブルについての相談事例を紹介します。

相談内容

同社は1931年(昭和6年)創業の京都の和装用白生地の老舗です。素材、ものづくりにこだわりがあり、絹織物を先端産業技術と融合した空間装飾品「絹ガラス」を開発していました。この絹ガラスを活用した製品づくりについて、当センターが主催する京都デザインマネジメント勉強会に参加され、開発手法やマネジメントを学ぶとともに、開発テーマはどうあるべきか、シミュレーションにはどうするかという観点を考察されました。

開発の背景

新事業である絹ガラスの素材を使用したプロトモデルとしての開発を検討するに当たり、従来事業である着物文化、絹の和装文化の延長上に、現代の生活、空間様式に活用できる製品の開発を検討されました。その一つとして、オフィス空間での来客の応接でした。通常コーヒー等で応接することが主流となっています。残念ながら和装業界でも同様で、情緒ある抹茶での一服は実現できていない事に気づき、茶道用立礼棚としての機能も備えたティーテーブルの制作を考えました。立礼(りゅうれい)とは椅子式の茶道手前のことで、この時使用する道具を立礼棚といいます。客人も椅子に腰を掛けてお茶を頂くという略式ではありますが、日本文化の集約である茶道を気軽に楽しんでもらうには好適な対象と考えられました。

製品

絹をガラスに封入加工した「絹ガラス」と、グラスファイバー不織布を裏貼りした「絹シェード」の美しさを最大限に生かすよう、空間デザイナー山下順三氏のデザイン提案を受け、棚の天板にはこの「絹ガラス」を活用し、正面はLEDを内蔵した行灯としました。

生絹平織地の刺繍文様により、同社ならではの日本の四季を表し、季節に応じて差し替えが可能となっています。春は「桜重



ね」、夏の「遠波」は銀色系刺繍で波を表現し、秋の「葡萄唐草」は生命力と実りを表し、冬の「大王松菱」は常緑の松を表す吉祥文様であり、通年使用も可能です。



モノトーンの色調をベースにしながらも、行灯のやさらかな光で心地よい空間をつくることに注力されました。意匠登録済み(第1524175号)

その後

当センターでは本製品の各種コンテスト等への応募に際し、応募書類の書き方等の指導も行いました。京都府が主催する京都文化ベンチャーコンペティションで「京都府知事賞 奨励賞」「RIMPA400年記念賞」を受賞した他、公益社団法人京都デザイン協会が主催する京都デザイン賞2014にも入選しています。

またルーブル美術館別館でも展示され、パリ日本文化会館に収蔵、京都府にも寄贈し本年8月より知事室で使用されています。

株式会社伊と幸

<http://www.kimono-itoko.co.jp/>

所在地/京都市中京区御池通室町東入ル電池町448-2
電話/075-254-5884
ファクシミリ/075-256-2818
事業内容/絹織物の企画・製造・販売
絹ガラスの企画・製造・販売

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 応用技術課 デザイン担当 TEL:075-315-8634 FAX:075-315-0000 E-mail:design@mtc.pref.kyoto.lg.jp